

## 【スタート】部門

【団体名】 かなざわサバイ部

【事業名】 生き残るための

避難訓練スマホゲームプログラミング事業

# 団体紹介

メンバー 【6】名

設立 【2025】年

## 1. 団体について（メンバーの紹介）

(1) 市内関係者 3名  
代表 三上 史朗（世界で2番めにおいしい焼きたてメロンパンアイス合同会社 代表）

松下 浩一（松下教育研究所 代表）  
芝田 泰基（金沢市スケートボード協会理事長）

(2) その他 3名  
中野 晴行（株式会社ジョイテル代表取締役）  
車 幸弘（石川県 県議）  
奥田 和也（奥能登元気プロジェクト 代表）



中野晴行



車 幸弘



奥田和也



芝田泰基



松下浩一



三上史朗

令和7年度協働のまちづくりチャレンジ事業 審査会資料

## 団体理念

誰もが自分の命を守り方を楽しく学べる社会をつくる

【目的】災害発生時の危機を遊びで体験！

“万が一”のその時に備え

正しく逃げることができる

思考を身につける訓練を

スマホゲームで行い

生き残る能力を持った子供を育てたい

## 第1.3回事業名【災害は突然スマホゲームで命を守るスキルをゲット】

【第1回 令和7年9月23日 13時～17時】

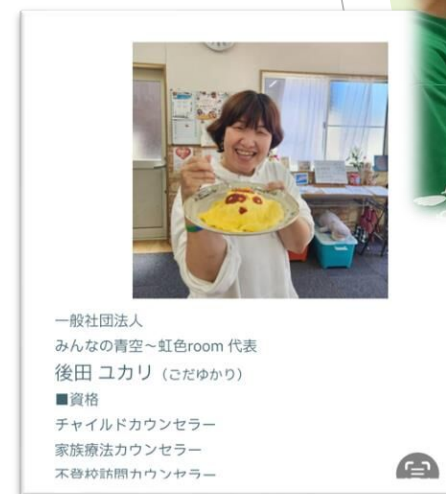
【場所】金沢市長土塀青少年交流センター 【参加人数10名】

【第2回 令和7年11月24日 13時～17時】

【場所】金沢市長土塀青少年交流センター 【参加人数12名】

【特記】

フリースクール一般社団法人みんなの青空～虹色room代表後田の紹介で  
YOUTH PACEの安倍さんと出会いました。そしてお二人の協力で不登校の生徒さん  
2名が参加しました。この経験が私にもとても印象に残る出来事でした。



安倍さん

後田さん

## 第1.3回事業名【災害は突然スマホゲームで命を守るスキルをゲット】

### 実施の様子



完成したゲームを見せる子供



ゲームをつくる子供



基本ゲーム画面

#### 課題

- 1.無料にしないと参加者が0だった。  
二回目の開催にはスポンサーが必要だった。
- 2.継続参加がなくゲームの深堀ができなかった。
- 3.フリースクール生徒さんの当時キャンセルが目立った
- 4.不登校児の保護者への接し方が難しかった

#### 成果

参加された子供と保護者からは大変好評でした。  
フリースクールの子供から「たのしい」との感想をもらいました。  
確実に逃げるという思考は理解されたと思いますし、プログラミングに興味はもったと思います

# 会場で2講座を開催

## 講座を設けた理由

1回目の事業イベントを開催し不登校児の保護者は子供を心配し、不安を顔にだしすぎのよう感じ、またその親の不安な様子を子供が感じとってしまい自由に作品が作れていないように見えました。

そこで2回目の開催では、あえて親子を別のテーブルに座ってもらうための講座を開催すること決めそのため保護者用の講座を開催しました。

## 避難場所等で活躍する 防災士について勉強

- 1役割
- 2資格の取り方
- 3避難所での心得等

上記について防災士のかたから教わりました。

## 地震保険について 保険会社代表に 講師をお願いしました。

- 1保険と共済の違い
- 2保険の申請方法
- 3自身の被災を通じての  
保険の必要性

。



## 地域防災士とは座学

## 地震保険申請座学

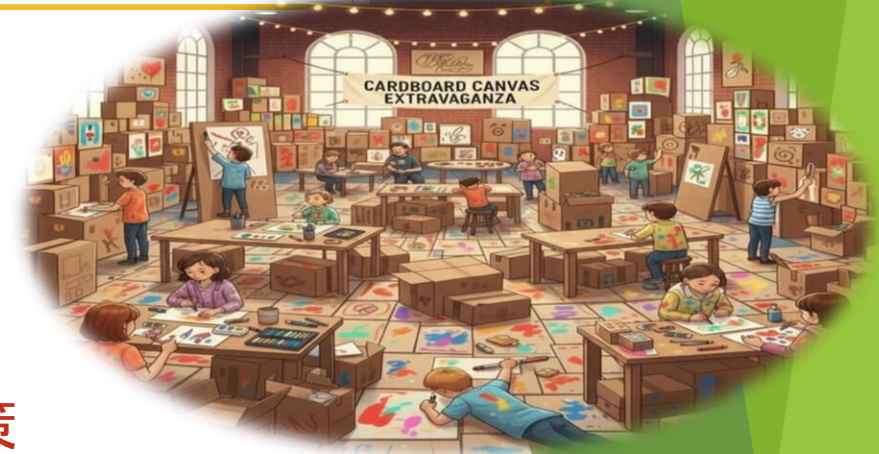
※この保険代理店の会社からは協賛金 1 万円を頂きました

## 2. チャレンジ事業広報イベント】

【令和7年11月20日 15時～17時30分】

【場所】 ガイヤ自然学校 【参加人数40名】

【目的】 **一回目の集客の難しさを解決するための対策**



段ボールイベントを開催する意味・メリット創造力を育む自由に落書き・工作できることで、子どもたちの発想力や表現力を伸ばす。

廃材の段ボールを活用し、環境への意識を高めると共に、親子のコミュニケーション促進するため一緒に絵を描いたりすることで、親子の会話や協力が生まれると提案。低コストで安全材料費が安く、柔らかい素材なのでケガの心配が少ない。SDGs・環境教育にもつながる楽しみながら「もったいない精神」やリサイクルの大切さを学べるイベントである。

**このような企画書を作成しガイヤでイベントを開催できました。**  
**その場で生徒と保護者にチャレンジ事業のイベントを説明し施設にチラシを張り出し実際に2名の参加につなげました。**



## 広報イベント実施の成果

うまくいったこと **【参加者2名獲得】**

### 課題を感じたこと

【アナログ遊び不足からくる子供の発想力の無さ。  
今回のイベントは外遊びが減る冬場の屋内イベントとしてポ  
テンシャルがあり子供の需要があるではないか？】



スタート部門 **【かなざわサバイ部】**

# 今後の展望

【今回の実施経験を踏まえた展望】

子供の心に重点をおき **誰もが自分の命を守り方を楽しく学べる社会をつくる** という理念に沿ったイベントを創造し実行する団体として活動したい

次回はスマホゲーム以外でのアナログ要素のイベントを創造する必要を感じました。

特に不登校児が参加が増えるような企画を考えを具体的に実行する団体として活動したい

**子供心がワクワクするイベントを作りたい**